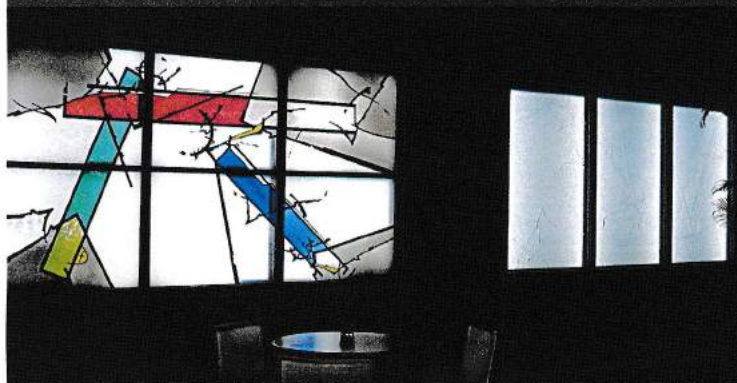


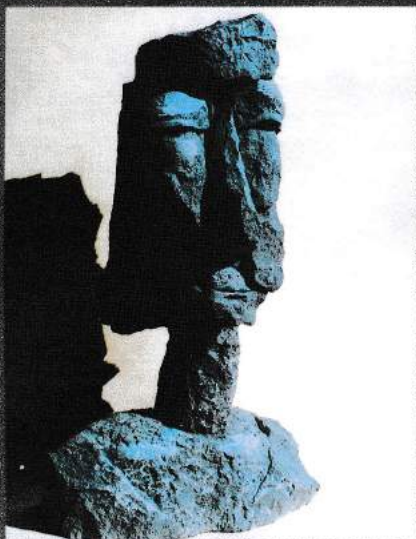
「X-Concurrence」



「未来への伝言」



「風を感じて…」



「個人蔵 海ラミテイル」



NO.40 2003.4



社団法人 日本建築美術工芸協会

物語はいつも、港で生まれる。

函館市市制施行80周年記念事業  
**第14回 2002函館aaca  
 景観シンポジウム**

日時／平成14年10月18日(金)PM2:00～

場所／函館市芸術ホール

北海道函館市五稜郭町37-8 TEL 0138-55-3521

# 港町函館の景観 港とひかり

○パネルディスカッション  
 テーマ／港町函館の景観

○パネリスト  
 田端 宏 函館大学経済学教授  
 石井 幹子 建築デザイナー  
 曾田 雄亮 風景家  
 阪田 誠造 建築家

○コーディネーター  
 田村 明 都市政策プランナー・法政大学名誉教授

○アドバイザー  
 奥平 忠志 函館市都市景観審議会会長・札幌国際大学観光学部長

主催 第14回日本建築美術工芸協会景観シンポジウム実行委員会  
 (日本建築美術工芸協会・函館市・北海道建築士会函館支部・北海道建築士事務所協会函館支部・  
 日本建築協会の北海道支部・函館建築設計士建築家協会・函館デザイン協議会・建築設計研究所)

後援 文化庁・日本建築学会・全国建設業協会  
 北海道建築士会・函館建設業協会・北海道建築士事務所協会



■ 函館市 函館市芸術ホール  
 ■ 函館港 函館市五稜郭町37-8  
 ■ 函館駅 函館市本町1丁目

# 第14回 2002函館aaca景観シンポジウム「港町函館の景観」港とひかり

日時：平成14年10月18日(金)

午後2時～5時

場所：函館市芸術ホール

主催：第14回日本建築美術工芸協会  
景観シンポジウム実行委員会

## パネルディスカッション

コーディネーター：田村 明

アドバイザー：奥平忠志

パネリスト：田端 宏

石井幹子

會田雄亮

阪田誠造



芦原義信

第14回日本建築美術工芸協会景観シンポジウム実行委員長  
社団法人日本建築美術工芸協会会長

本日は、港町函館の景観、「港とひかり」と言うことで、景観シンポジウムを行うことができまして、多数お集まり頂き本当に嬉しく存する次第であります。

この函館は北海道の表玄関と稱され本当に素晴らしいところでありまして、我々は東京に住んでおりますと、一段と函館の良さを感じます。いつか来訪した昔のことですが、あの丘から海の方を眺めると、夜の港町の光と遠くでは漁り火の光が見えまして、とても素晴らしいことを今でも忘れることができません。この地函館においてaacaシンポジウムを行うことができまして、大変光栄に存する次第です。また諸準備等賜りました実行委員会始め関係者の皆様に厚く感謝とお礼を述べさせていただきます。本日の講師の諸先生は、日頃なかなかお目にかかれない方々で、ご多忙にもかかわらずディスカッションして下さいます。どうぞ皆様最後までご清聴下さいますようお願い申し上げます。

終に際しまして、このシンポジウムが真に有意義でありますことを祈念しまして、ご挨拶とさせていただきます。



堀達也北海道知事

嶋田裕司北海道渡島副支庁長代読

社団法人日本建築美術工芸協会を中心に関係機関、関係団体の協力の基にまた、函館市市制施行80周年記念事業の一環として、港町函館の景観、「港とひかり」をテーマに景観シンポジウムが盛大に開催されますことを心から祝い申し上げます。また道内はもとより全国各地から多くの皆様方に御参加をいただき道民を代表して心より歓迎申し上げます。北海道の玄関口である、ここ函館は、長崎、神戸、横浜、新潟と並び古くから西洋と交易されるなど日本を代表する港町であり、多くの歴史遺産に恵まれ、また函館山の素晴らしい夜景は他にない特徴的な景観を作っています。北海道は四季の変化に富み、厳しくも美しく雄大な自然が生活と産業と融和して北海道ならではの風景となっています。この貴重な財産を整え次の世代に引き継いで行くことが更に重要で今後も道民運動として積極的に広げたいと考えています。

本日の、景観シンポジウムで、この函館の恵まれた歴史文化的遺産や観光資源を総合的にとらえこれからの都市景観のあり方を議論いただきたく存じます。本日のシンポジウムで是非景観づくりへの理解が深められ地域間の交流促進に役立つ事を祈念いたしまして開催のご挨拶いたします。



井上博司函館市長

木村孝男函館市助役代読

本日は、シンポジウムに多くの皆さんお越しいただき、誠にありがとうございます。このシンポジウムは、市制施行80周年の記念事業の一環として(社)日本建築美術工芸協会、地元関係団体、北海道そして函館市が実行委員会を結成、文化庁他関係団体のご支援で開催されました。関係各位に本席から厚く御礼を申し上げます。ご案内の通り、函館は天然の良港に恵まれていて、本日お越しの横浜、長崎、神戸、新潟の各都市と共に我が国最初の貿易港指定を契機に、洋風文化が流入し、旧市街地である函館山麓一帯は、今も洋風の建物、和洋折衷の民家が多く坂道と融合し特色ある町並み景観を形成しています。また、三方を海に囲まれた扇形の地形の本市の夜景は世界一と称されており、「宝石を散りばめてのような夜景」と称える言葉は、まさに本市として財産となっています。反面都市構造の変化に伴う人口の移動や減少、地域経済の低迷は、本市の貴重な景観に少なからず影響を及ぼしており、このような中で、良好な景観を維持しながら地域繁盛にとり組む事が課題となっており、本日のテーマ「港町函館の景観」は、今の函館が抱えるテーマと合致しており、シンポジウムに期待すると共にご参集の皆様にお礼を申し上げます。本日は、誠にありがとうございました。



河合隼雄文化庁長官  
杉本昌裕文化庁調査官代読

祝辞、第14回2002函館aaca景観シンポジウムの開催に心からお喜び申し上げます。

aaca景観シンポジウムは、我が国の都市景観のあり方について提案をされており協会関係者並び開催地の皆様方のご努力に敬意を表します。今回は、ご当地にふさわしい港町函館の景観～港とひかり～のテーマで行われてますが、パネリストの先生方の多くの示唆に富んだお話しに期待しています。景観には、地域に置

かれた、自然や歴史的時間の積み重ねがもたらした独特の美しさとともに豊かな文化的価値が込められております。本シンポジウムにおいて函館市を中心に港湾都市の景観について論じ、景観を通した新しい生活環境の創出や芸術的価値観を持つ景観の創出などについて貴重な提言が得られると思います。

本シンポジウムのご成功と本日で出席の皆様方のご健勝を祈念いたします。

## パネルディスカッション

コーディネーター



### 田村 明氏

都市政策プランナー、法政大学名誉教授

それではシンポジウムを開かせていただきます。進行は、はじめにパネラーの方のお話を賜り併せて会場の皆様方に質問、意見等を伺いながら進めて参ります。御案内の通り本日のテーマは「港町函館の景観」です。景観については皆さんはどのようにお考えでしょうか…?

私は横浜市で景観の問題と取り組んでまいりました。特にアーバンデザインという町全体をデザインする仕事に携わってました。この仕事は誰か偉い人が命令して出来ることではないと私は考えております。バリーのシャンゼリゼ、これは、ナポレオン3世が権力をもって行われましたが、現代では町の人達全体で作りに上げて行くべきものと考えます。自然の中に歴史が刻まれてこそ現在の営みがあり、想いと心があり、そのことが景観になって現れるものと私は理解しています。特に港町の景観は、そこに海があり、山があり、船の出入りがあり、人の交流ありで独特の景観を有し港町のいろいろな物語が綴られた町です。

今回はそういうことを主にいろいろ議論したく考えます。是非お願いしたいのは、ここにおられる皆さん方もどうぞ質問という形で参加され、後の議論に繋げていただきたく思います。では、現地おわりの奥平さんをお願いします。



田村 明氏  
ハネリス  
石井 幹子  
ハネリス



會田 雄亮  
ハネリス  
阪田 誠造  
ハネリス

アドバイザー



### 奥平忠志氏

函館市都市景観審議会会長  
札幌国際大学観光学部長・観光学研究科長

今日の港町函館の景観にお呼びいただきありがとうございます。札幌に行って3年になりますが、札幌の町と函館の町を行き来して感じますことは、函館はすいぶん恵まれていると云うことです。田村先生から景観についてのお話がありましたが、私も同じ考え方でして、景観は単体、一つのものでなく、山有り、海有り、そして町全体、また建物がまとまって景観を呈する場合もありますが、町全体を通して歴史的背景の中、あるいは、自然を克服するのが人間の務めでしたので、自然の対応のなかでいろんな構造物を作って参りました。それに加え自然が作り出すものがうまく調和して行くことと思います。反面調和のない町もいくつかあります。韓国のソウルなどはその例でして二度と行くとは思いませんでした。その原因はいくつかありますがまず当初の景観に魅力を感じないからです。同じ大都市でもニューヨークはあのマンハッタンという島にあるからすばらしいと思います。地域的條件が多分にあると感じます。函館の場合も同じことを言えると思います。函館山を頂点として、砂州でつながり陸と山の地形の中で都市が展開しています。世界の中非常に少ない函館山からの夜景はまさに天下一品であり、ここに住む住民は非常に良い財産をお持ちだと思います。函館と小樽は幸いにして戦後、東京、関西の資本がはいらなかったため、現在も西部の町並みが温存されていますが、当時は斜陽都市と言われてまして、札幌、室蘭、苫小牧等は外からの資本で徹底的に都市が改造されてしまいましたが、現在の函館があるのは開発が進まなかったことによるところが大きいと思います。また函館には歴史的風土を守る会があり、北海道庁の函館支庁の庁舎が、火事で内部を焼いた際、開拓の村に移転の話があり、その際市民運動として移転反対をしたのがこの団体であり、反対運動の中核となり西部の古い建造物を残そうと言うことが市民の中に広がりました。その後高度成長により函館にもマンション建築が進みましたがいち早く景観条例を作るための運動もこの団体が起こしました。その結果比較的早い時期に西部の町並みの保存のための景観条例が作られ、それが因で都市域全体にこの条例が適用することになりました。昭和9年に函館は、大火に見舞われました。悲惨な結果を生むこととなり、今でもその名残が周辺に見られます。広路と言われているのが、この広路をもう少し活性化することが課題となっております。丁度函館山の護国寺社からつながる大通りが衰微としてウォーターフロント地区周辺で活用することにより、あの朽ちてくるような建物であったものが、今はもうひかりを帯びてきております。特に函館は港周辺駅から西部の方にかけてすばらしい綺水線を持っていますが、今だ充分に生かせ切れておりません。今日はパネラーの先生から様々な意見が聞かれることを期待しております。私からは特に函館の良さを宣伝いたしまして、それを守りどう生かしてゆかが、との問題を提起しまして是非パネリストの皆さんのご意見をお聞きしたく思っています。

## コーディネーター意見交換

田村 明氏(以後 田村)「ちょっと1、2伺いたい、歴史的風土を守る会というのはいつ頃出来たんですか」

奥平忠志氏(以後 奥平)「1979年です。23年前となります」市民運動として今でも続けてます。

田村 町づくり、さっきの景観の話で申し上げた通り、市民がその気にならないと良い景観が出来ない。函館の方は市民がその気になってると考えてよろしんですか

奥平 「私は少なくともそう思って、今も活動を続けております問題は若い人たちがそれを継いでくれることだと思います。市民運動の隘路は次の世代に広がることを願ってます。」

田村 次に広路のことで…

奥平 広路ですが、丁度市役所～函館山に向かっている道が函館の町の中までつながってまして、これが生かされている部分と生かされていない部分があります。

田村 「海外で住まわれた港町を通して函館のウォーターフロントに疑問があるという」お話しでしたが

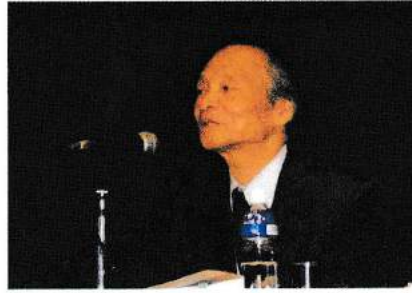
奥平 いろんな所あります。シドニーにダーリンハーバーというところですが僕が留学したころは、全然整備されてなくオリンピック以来一大観光地になってますが古い建物は確実に残ってます。特に壁を残して中を新しくする手法ですが函館の場合は残っているだけで開発されてません 是非やってほしいものです。

田村 すばらしい港町たくさんあります。私もシドニーに今年参りましたが、あの辺がずいぶん変わっているにおどろきました。函館にはまだやることはたくさんあるという話して、次のパネリスト田端さんお願いします。

## パネリスト

**田端 宏氏** 道都大学経営学部教授

私は、歴史を専門にしていますので、こ



の歴史をどう見るかと言う土台で景観に係りたい。函館は港の地形から非常に港町に適合しており、15世紀函館うすけしと呼ばれたところに函館という館を交易拠点に若狭から毎年商船が渡って来て昆布を主に商いが行われた。浜辺には問屋が建ち並んでいった。またこの地域には、先住民のアイヌ勢力が倭人との共存共栄と対立の様相が15世紀中頃まで続いた。幕末に蝦夷地を統治する拠点として函館奉行が配置され蝦夷地全域、また樺太、千島列島を含み幕府の役人が配置され、北海道で一番大きい町になります。やがてペリーがやって来て、ペリー提督日本遠征記には世界無比の港と書いてあり。港は充分広く、深さも充分で大きな船も岸近く停泊を可能にし。町は港に沿って綺麗に並び道路は巾広く山に登っていく形で町屋が並んでおり清潔な町だった。ただ函館は港として大変良い所だが、貿易の拠点、対外貿易の拠点としての発展性は疑問だった。函館はペリーにより開港地としてその後大きな港町にして発展して行く、この町の歴史で特に景観と係わって、大きな火事が繰り返し起こり町の形をどんどん変えていった。火事を防ぐために見慣れて整った町並みが意識され、景観に対する愛着が長い歴史の中で形成された。函館山の景観で、ロープウェイと展望台で当時景観を損なうと言う意見があったが開業から50年の歴史が経過する中で、その景観に親しんで自分たちの景観を意識して作ってきている。ということ、もっとも慣れ親しんではいけないものもありますが、慣れ親しんでよいものなのか、その辺りは他のパネラーの先生に触れてもらい、私の歴史の話は終わらせていただきます。

## 意見交換

田村 どうもありがとうございました。最後の方でロープウェイの駅、そしてテレビ塔、重大な問題提起されましたが、後の議論としたいと思います。質問なんですが最初お城が出来て松前藩が出来たというお話ですが、港の条件として函館の方が良かったと思われませんが、松前の方が中心になったというのはアイヌとの係わりがあるのでしょうか。

田端 宏氏(以後 田端) そうだと思います。両端がアイヌ勢力で北南の真中が松前なんです。

田村 お話の中のペリーのあたりで函館山と言わないで観音山とか薬師山とか言われましたが函館山は何時から言われたのですか。

田端 調べたのですが何時からと言うことは不明です。

田村 どうもありがとうございました。次は石井さんですが、ひかりの計画もやられたようでありますのでそういう思いも込めてお願いします。



## パネリスト

**石井 幹子氏** 照明デザイナー

照明デザイナーの石井幹子です。私はこの町に来ますと非常に感慨深くなります。実は父方のひいおじいさんが、江戸から出奔して五稜郭に立て籠もった人で、一方母方の祖父がこれまた函館にご縁がありまして、日銀支店長でここに何年かおりました。そんな関係から私も小さい頃から函館という町の響きが私の家でも大変独特な響きで語られて参りました。市役所のご依頼で、フラッシュタウン函館の計画に参加させていただきました

た。夜間の景観照明は、日本では80年代中ばから始まったが、ヨーロッパではかなり古く1920年代から景観照明が行われました。ヨーロッパで勉強した訳ですが都市の夜景をひかりで演出することの大切さは、まず、町的美観を作る、町に暮らす人々の安全を守る、町が明るく綺麗になる、従って生活している人たち訪れる人たちの時間と空間が拡大すること、が目的で照明いたします。1980年代半ば横浜市で景観照明をやりました、その後函館市の方も夜景をもっと整備し活性化しましたが、これが日本のいろんな町へと広がりました。スライドで説明します。まず函館山からの夜景から巡って歩く夜景に変えようと言う大きなテーマで効果的に23箇所の場所を選びライトアップしました。函館は開港以来沢山いろいろな建物が出来ました。ヨーロッパ風、ロシア風、アメリカ風そして中華風のもの、国際色豊かです。それぞれ大変りっぱに精魂こめて作られており、ひかりを当てて本当に感動したのを覚えてます。次に長崎市の方からご依頼いただきました。長崎は函館よりもっと長い歴史をもっていて、町の中に沢山宝物を持っているところですが函館山のようないい視点場に恵まれなく、国宝の大浦天主堂をライトアップすることから始めました。次は姫路市ですが、姫路城が世界文化遺産になったことを記念して、お城をライトアップしその周辺の様々な施設や堀端等の照明そして市全体の景観照明のガイドラインを作るお手伝いをしました。次は下関に出来た海峡タワーです。今下関市は海を隔てた隣の町北九州市の門司と下関をカップルにして海峡で夜景を作っていくという動きが大変活発です。これはもうひとつ違った景観照明の先駆的な役割をいつも果たしている横浜市の例です。次に岐阜の白川村です。これは雪の重さで照明器具が潰れてしまうことから工夫をこらしまして一戸一戸のライトアップではなく満月のようにひかりが村全体に降り注ぐ月明かり照明の構想をしました。私は日本人の照明の一番のルーツはこの月明かりではないかと思っています。月明かりで照らされた景色、町、家、その美しさは日本人の大変深

いあこがれをいいたくところと思います。私は今日本の都市景観照明については是非そのあり方を考える必要があり、その時期と考えております。

### 意見交換

田村 ありがとうございます。照明を広めること、御苦労と思われませんが、照明を通して特に函館に際して難しい点とか困った事がありましたか。

石井幹子氏（以後 石井）函館の場合そのような事ありませんでした。私にとってこの町は市民の方たちと市役所そして新聞社の方々の熱心なサポートのある町と思えました。今でも8月13日の夜景の日には、各地区がアイデアを出し合って照明をして、大変活況があります。

田村 8月は何んの日と云うですか。

石井 夜景の日です。〈や〉は8で、〈けい〉は高校生の発案だそうです。トランプのキングで13だそうです。

田村 どうもありがとうございました。次に會田さんをお願いします。



### パネリスト 會田 雄亮氏 陶芸家

私は函館は初めてですが、20年ほど前札幌の京王プラザホテルのロビーに陶壁画を制作致しました。その折函館を通過した際に、この町は歴史的建造物が多いと気に留め、是非函館を訪ずりたいと思ってましたが今日までその意を果たせなく大変申し訳なく思っています。私は仕事を通して札幌、豊平、そして江別と、その町を知る機会を得ました。江別ではレンガフォーラムを通してレンガの町を実感し、又、レンガの暖かみに触れる事

が出来ました。それが縁で数年後にセラミックアートセンターの建設では、大きな作品を二ヶ所に作らせて頂き、レンガが景観を作る上で重要な素材である事を体験致しました。

その後豊平の道立スポーツセンターや、札幌の科学技術振興事業団活用プラザ札幌などに作品を作る機会に恵まれました。私は陶芸家として二つのアプローチを持っています。一つは食器を作るという陶芸、私は、特に練り込みの技術の焼き物を作っています。もう一つは、環境造形としての陶芸です。大学では都市計画を学びましたが、たまたま焼き物に出会い。以後この道を歩んでいます。当時の私は陶芸についての専門学を習った訳ではありませんが、焼き物を通じ食器を作る事に意義を感じてました。日本人は焼き物好きで、陶芸と云うと兎角情緒的になりますが、たまたま窯業工学ハンドブックを見て、焼き物はガラス、ホウロウ等と共に硅酸塩工業と呼ばれる事を知り、これは面白い、陶芸を少し距離を置いて見つめようと考えた時、レンガ、タイル、土管などが強烈な窯業素材としてのイメージが湧いてきました。焼き物は人類の歴史が始まって以来人間の身近な素材として係わってました。また屋根瓦もそうですが、屋根瓦の文化には他の茅屋葺き、トタン屋根に比較の出来ないりっぱな落ち着いた風景があります。それは京都における個性と通じるものがあります。陶芸の世界は単に焼き物と云う概念から、環境造形の世界に通じることを知りました。私と環境造形との出会いは、芦原義信先生設計の茨城文化センターから始まり、新宿三井ビルの“広場の造形”などにつづいております。世界にはすばらしい焼き物が景観の素材になっているところがあります。むろん万里の長城も焼き物、紫禁城の屋根はすばらしく、ますます焼き物は大事な素材となりました。以来焼き物は景観づくりに大事な要素と考えてます。特に北海道は寒い所ですので煉瓦は良い素材と思います。ここに街づくりの好例として現代アートと関係あるポルトガルのナザレ海岸の敷石のデザインによる舗装道路があります。これは石ですがまたウォーターフロントにもすご

いよいよ計画があります。横浜・函館を通じて世界中にウォーターフロント計画多くあります。話は変わりますが、丁度去年のあの惨事の2日前にサンフランシスコの空港のミュージアムショップで買物をしましたがそこで新ためて地域産業振興について考えさせられました。私が学長をしておりました山形県でも地域産業振興はガタガタですが、最近ようやく自分達が自慢出来る地元産の秀れたものを一堂に集め展示販売をするデザインハウスを開店するところまでこぎつけました。ウォーターフロント等種々のプロジェクトの未来性は地域産業の振興を通じて計画されることが重要と考えます。そして景観は外観だけではなく地域産業を含めた内観にも重点を置いた景観を作るべきと考えています。

### 意見交換

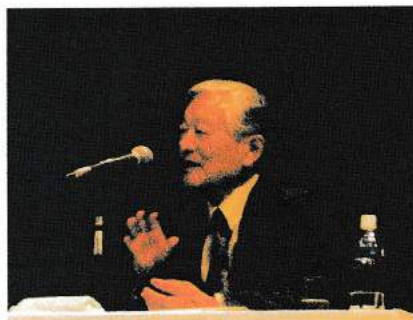
田村 はい、どうもありがとうございます。お話しの中で内観という言葉がありました。何か産物のことですか。

會田雄亮氏（以後 會田） やっぱり物作りの産物です。

田村 焼き物の話で、最近イナックスさんとで景観的な焼物をやり質が良くなったと思うんですが如何ですか。

會田 エコタイルなど作られています。焼き物もいろいろと開発が進んでいます。聞いたばかりの話ですが、タイルの表面にチタンの塗布剤をして焼付けたり又紫外線を利用すると焼物の汚れを防ぐなどの表面剤が話題になっています。

田村 函館は煉瓦造り結構持ってますが、新しい焼き物で景観上の可能性あると思いますが…それでは最後になりました、阪田さんお願いします。



パネリスト  
阪田 誠造氏 建築家

私は建築の設計を仕事としています。1980年に竣工した、函館西武の設計に係りました。敷地の調査から竣工まで約2年、函館には何度も泊まりました。函館山から見た街は、両側を海に挟まれ、長く延びた地形の先が緩やかに傾斜し、この海と緑に包まれた都市がもつ景観の強烈な印象、魅力に打たれました。以来20年を経て函館でのシンポジウムで都市景観のお話しをすることになり、非常に縁があったんだと思います。

建築は都市景観をつくり出す、ひとつの要素として重要です。しかし都市景観は建築だけではなく、街路など多くの事物が関連します。函館でいえば、函館山や緩やかな傾斜地の地形と街を囲む海や、使われて生きている昔の建築が豊かな街の歴史を彩る、さらに新しい建築や街路などの総合として都市の景観がたち現れることになるのです。

景観問題を考えるとき、20世紀の100年間で日本の国土、都市は大きく変わりました。何よりも産業の工業化が激しい勢いで進みました。太平洋沿岸には、ベルト状に工場集積地帯が形成され、東京など大都市の海岸は、大工場が連なるようになりました。都市景観で水辺はたいへん重要な場所だと思います。自然が豊かであった頃の町の美しい水辺が、人口の都市集中、経済成長から機能優先、効率重視により、地域の特色、特徴を消し去り、眺めることがない排水路に変わりました。かつての日本の国土は、世界に誇れる美しさを示していました。そのことは、19世紀に日本を訪れたイギリス人によって見出された記録があるのです。当時工場の煤で黒く汚れていた英国

の国土は、今は田園都市の緑豊かな国土に整備されています。

江戸の町には、川の他に縦横に多くの掘り割が造られ、現在のトラックの役割を船が担っていました。そのため店や蔵は水側を表にして、坂が多い起伏の地形に富士山など、眺望を重視した通りなどの街路が造られ、緑と水の庭園都市が江戸のマチであったと考えられます。

21世紀の課題として、現在の環境劣化を再生させる活動が求められています。都市景観の課題もその一端にあると考えられます。ここ函館の町は、恵まれた自然の地形と歴史的な建造物が大切にされ、さらに個性豊かな都市として成長発展して貰いたいと思います。函館の海に面した部分は、賑わいの基礎を築いてきました。ドックや倉庫、海峡連絡船と鉄道の交通中継施設が担い手でした。これからは、ウォーターフロントの再開発にも、昔の建造物を全部消去して新しく造るのではない、建築の保存改修を基本に、中身を変えることが重要になっていくと思います。景観の記憶、保存と修復を同時に行うことが景観計画を前進させる重要な牽引力になるのではないのでしょうか。都市景観を考える上でハイライトとなる大建築、重要な建築について、社会一般の関心が今一つ薄いように思います。町づくりに際しては、専門家、行政等の人たちがばかりでなく、その地に住んでいる人たち、また町を大切に考える人たちが、知恵を出し合い、将来を考えて議論に参加してゆくことが重要だと思います。景観の問題は、そうしたことを抜きにしてはならないのではないかと。建築の立場から考えると、社会一般の関心が低いので、個々の権利主張が強く表れてくる。そして都市景観を混乱させ、既存の美しさも際立つことなく忘れられ、見失われてしまうのではないのでしょうか。景観にこそ、土地や都市の固有性、独自性が尊重されなければならないと思います。

都市景観の骨格は、建築美を支える街路にあるといえるでしょう。楽しく歩ける街路が、建築を見て楽しみ、風景を愛でる空間を造り出すこととなります。さき話に出ていたような道路の舗装が美

しいとか、歩道に木陰をつくる樹木があるとか、スペースがゆったりしている町の景観に人々の関心が向かうようになり、安全に快適に、お役所サイドの問題でなく、都市景観が市民全体の関心事になることが本当に必要であると思います。奥平さんのお話にありましたが、この函館にあっては既にそのような動きに手を付けられているということで、私も感銘を覚えました。今までは東京への一極中心が感じられていましたが、今後は地方自治の時代が変わってゆくでしょう。そうした中で景観計画の意志が社会的に支持される日も近いと期待されます。美しい函館が真に美しい都市として発展することを期待しております。

田村 私も建築家の友人沢山おりますが、個々には優れていると見える建築も、都市景観を壊すのではないかというのがある、こういうのはどうでしょうか。建築の教育にもそういう実態があったんじゃないかと。白紙のうえに課題を出しているような。

阪田誠造氏（以後 阪田） 基本的に良い建築は都市景観を壊すようなことはないと思います。目立つことを狙う建築は、現実にありますね。高さや大きさのスケールが街並みと飛び離れた建築も、環境や景観上、社会的反感を買うこととなります。反感が建築を阻止するまでには至らないのが現状でしょうか。

田村 函館の場合、市民の方活発ですね。景観条例もありますが、それに則っていても、けしからんといわれるのもあるようです。そういう場合、建築家としてどう対応したらよろしいのですか。

阪田 まず相手の意見を聞き、設計者の考えを伝えて話しあい、よりよい解決を探る努力が必要でしょう。日本は建築を造るまでの期間が短か過ぎると思います。

田村 田端さんから、函館山の無線塔、テレビ塔展望台の駅の景観問題について、阪田さんはパネラーの中

で設計関係なのでご意見いただきたいんです。

阪田 テレビ塔は大都市のどこも景観上も、都市内の高層建築の反射障害や電波の影などの問題があります。大都市で未だにテレビ塔から電波を受信している現状に問題ありです。電柱が街路に多いことと同じ問題であると思います。



コーディネーター 総括  
**田村 明氏**

この度函館で景観シンポジウムが行われたことは、非常に有意義と感じています。

私は35～6年前、都市づくりの小さい事務所から横浜市に入って、一番初めにやったのが景観の問題でした。当時はそういう意識が全くありません。全国の都市計画の元締め为建设省の都市計画課でも物を作ることがすべてに優先していました。「街を美しくしようとか景観を考える、などというのは建設の妨害になりけしからん」と言われました。それでも結果的に高架の高速道路を地下化しましたが、当時景観を論ずることが難しかったのです。

今日は、ここに多数の人が集まって、景観という言葉に抵抗なく議論されることは、ずい分進歩したと思います。まだ日本の景観がそれほどよくなったとは言えませんが、意識され議論されるようになれば、これからは進んでゆくでしょう。日本も戦前にはたとえ貧しくても美しい都市景観はたくさんありました。それなのに戦後は景観のことを考えなくなつて、都市が醜くなりました。

役所・市民・企業、等各自が勝手に開発し、その結果が都市がめちゃくちゃになった。やっと気がついて景観の問題が出て参りました。景観を取り上げるとい

うことは、立場が違ってても全ての人に共通の問題です。景観は特定の人のものではなく、すべての人のもので。今日景観が取り上げられるのは、それが市民全体のものだと気がついたことが大きいと思います。都市景観は言わば市民の協同作品なのです。

個々の問題では電柱地下化、看板、緑化等問題を生じてます。ここで私も言いたい事たくさんありますが、これを良くするかは皆さんの力、あるいは皆様方が自治体を盛り上げ、つくりだすものです。当然ながら建築家や土木技術者が、個々の施設だけでなく、全体の都市景観を考えるべきでしょう。

景観とは、まずみんながその気になり街に関心を持つ事からはじまる。函館の景観は市民運動が支え自治体も努力してきたように思います。函館以外の方も自分たちの町で決して役所任せにしないことです。各自がその中で何が出来るかを良く考えていただき、自分たちがどのように関われるかを、お考えいただきたいと思います。大変時間が無く恐縮に存じますが、これで終わらせていただきます。どうもありがとうございました。





# 第14回2002函館aaca景観シンポジウムを終えて



張間 進一

函館市都市建設部 都市デザイン課 主査  
函館市東雲町4-13 TEL 0138-21-3389

第14回函館市で開催された景観シンポジウムは、北海道では初めての開催となりました。私がこの年に、今の課に移ってシンポジウム開催に携わったことは、貴重な経験となりましたが、初めはどこから手を付けて良いかわからない状態の中、開催に向けた準備を始めました。また、この年は函館市が市制施行80周年を迎える節目の年でもあって多くの記念事業が計画され、本シンポジウムも記念事業の一環として開催されました。

主催は実行委員会とし、社団法人日本建築美術工芸協会様を初め、地元関係団体にご参加いただき、実行委員会を立ち上げ、テーマ、パネリスト等のご出演者が大方決まると安心する間もなく、突然8月のコーディネーターの内井昭蔵様の御訃報に愕然としましたが、奮起して、aacaの皆様初め伊藤事務局長のご尽力のもと、地元の要望と亡き内井様のご遺志を尊重し、「港町函館の景観」(港とひかり)というテーマでご出演者も決まりポスター、チラシもようやく開催間近に作製されました。

そんな訳で出来るだけ大勢の参加者を募るため、aaca様はもとより、実行委員会構成団体、北海道内全都市町村に渡島支庁関根主査のお力をお借りし各支庁を通じて参加要請をし、各種関係団体に呼びかけ、また電車、バスへの車内広告、ラジオ放送、ホームページ掲載、市政はこだてへの広報、など様々な広報活動を展開しました。

幸い同じ記念事業の開港5都市景観まちづくり会議が函館での開催ということもあって、開港5都市の皆様方のシンポジウムへのご参加もいただくことになり、10月18日「港町函館の景観」(港とひかり)をテーマにした「第14回2002函館

aaca景観シンポジウム」が函館市芸術ホールで開催されました。

当日は、入場者400名余りで、ご参加いただいた皆様方には函館でこういったシンポジウムが開催されたことは大変有意義なこととのご感想をいただきました。

これも素時らしいパネルディスカッションを展開していただいた先生方のお陰と感謝申し上げます。

パネルディスカッションでは、特に函館は、函館山山麓一帯に、今も洋風建物や和洋折衷の民家等が多く残され、坂道と融合し特色ある町並み景観を形成しているが、都市構造の変化に伴う郊外への人口移動や減少、長引く地域経済の低迷はこういった貴重な景観にも少なからず影響を及ぼしていることから、地域活性化に取り組むことが課題となってきていることや、世界の港湾都市のウォーターフロントの開発についても、どこも一律で独自性に欠ける、函館の場合、例えば住宅と水面、或いは水路とを、美術、工芸で繋ぐ町づくりなどが考えられるといった貴重なお話やご意見をいただくなど、函館のこれからのより良い景観づくりに大変有意義なシンポジウムであったと思います。

本シンポジウムの開催に際し、ご参加いただいた方々、開港5都市の皆様、aacaの皆様、北海道、各種建築関係、デザイン関係の皆様には大変お世話になり深く感謝申し上げますとともに、日本建築美術工芸協会の益々のご発展と今後のシンポジウムの成功を祈念いたします。



# シンポジウムに参加して



朝倉 美津子

aaca会員  
染織タピストリー作家  
京都市西京区大枝西新林町6-10-18  
TEL075-331-2763

## 函館雑感

函館においては古くから交易の一つの拠点であったという事情もありいち早く洋風建築が建てられ、そのような建築上の歴史文化遺産が現在でもしっかりと生かされている。街並みには、北海道ならではの雄大な自然の特徴も生かされていて、スペースがゆったりとしている。私は今回初めて函館を訪れたのだが、この街は人に優しい魅力有るところだなあという印象を持った。それにはもちろん、ウニやイクラを始めとする海産物が極めておいしいことも重要な要素として含まれているけれども。

かつて、風土の色合いというもの各地域には有ったのだということ、この街にきて改めて思い起こした。一昔前までの日本の美しい国土は、遠くからの眺望は美しく、近くでも目だけでなく体全体で感じる良さを兼ね備えていたものだった。景観は決して建物だけの問題ではなく、人工のもの以外の自然環境と一体になってこそ意味がある。山があり海があり、そしてまた、そこに舟が出入りし人間が往来し、そこに住み生活する

人々の心があり、歴史がきざまれていくことによって景観に厚みと重みが増える。このような全部の要素が含まれてこそ、魅力ある景観となる。

シンポジウムのなかで、函館では「いい景観を守る会」なるものが1979年に市民運動として発足し、今でも積極的に活動されており、市民が景観を支えてきたという自負があるのだ、というお話があった。景観というものは大勢のひとで長い時間の蓄積のなかでつくられていくのだが、実際には全ての人、立場は違うみんなのものとの意識を持ち、町づくりに関心をもつところからはじまる。専門家や市民みんながその気にならないとどうにもならない。景観を守るという市民の意識の点で、函館は、私が生まれ育った京都などと比べても意識が進んでいる。それだけでなく、市民がまた古きよき日本の素朴な心をも濃厚に持ち備えているという点でも、日本全体が見習わなくてはならない貴重な都市だと感じた。



# シンポジウムに参加して



田平 徹

aaca会員  
大成建設株式会社建築営業本部営業担当部長  
新宿区西新宿1-25-1 新宿センタービル  
TEL03-3348-1111 (大代表)

爽やかな初秋の10月18日早朝、初めてのシンポジウム参加という期待と緊張感を背負いながら家を出る。羽田空港にて参加者のメンバーと合流後一路函館空港へ直行である。

機内でふと考えた。今回のシンポジウムは港町函館である。函館は、北方海運、開拓の歴史、最初の開港場、明治維新、青函トンネル等日本の歴史の重要な舞台としての役割を果たしてきた。かつて、函館の人達はこの美しい港町を舞台にして、どんな生活・歴史を重ねていったのだろうか。その足跡を、気骨を肌で感じる事ができればと念じつつ小一時間で函館空港到着。そして慌しく会場の函館市芸術ホールに向かった。

今回のaaca景観シンポジウム会場として相応しい函館市芸術ホールは、すでに多くの参加者で満場の様相。芦原会長からの開催宣言で始まり、北海道知事、函館市長の挨拶と続いた。そしてコーディネーターの田村先生の快活な議事進行のもと、招待パネラーの先生方が新しい都市景観構築への展望を語られた。我が国最初の開港場として異国文化を導入し発展してきたこの函館への想いと都市景観特への想いを重ねた印象深いディスカッションであり、個性豊かな討議に感動した。照明デザイナーの石井幹子先生は、「ファンタジーフラッシュタウン函館」を手掛けられ、また豊かな経験から「光」は都市の必須条件であるとしてそのあり方を話された。パネラーの先生方の熱い討議が進み、予定時間はあっという間に過ぎて終了の時刻となり、残念ながら参加者からの質疑も全部が紹介できないほどであった。そしてシンポジウムを通じ、緊張のなか幾つか考えさせら

れた。

現在函館は、歴史的文化遺産、観光資源に恵まれたウォーターフロントとして魅力ある街であるが、今後はこのような市民参加型のディスカッションを通じ「光と環境との調和」を目指した環境整備により新しい都市景観のあり方を提言できればと感慨した。そしてそもそも自然光しかない地球にあって人類が啓示のごとく自然界での火を発見し、その光を明かりとして利用した。今やその光を自由に操るまでの技術と英知を得たが、残念ながら日本では都市景観としての光・光環境は、まだまだ市民権を得ていないのではと痛感した。

大勢の参加者で熱くなったシンポジウムは、盛挙のうちに無事終了。後は美味しい肴と懇親。参加者はそれぞれ夜の光の函館を散策したと思われる。翌日は、曇ながら穏やかな函館市内を歴史遺産探訪からスタート。午後、観光客で賑わう街を後にして、現代建築として注目を浴びている函館未来大学を視察した。透明ガラスを多用した教育の現場、既成概念に囚われない斬新な空間構成とカリキュラムを持つまさに未来を彷彿とさせる大学であった。

今回のシンポジウムは歴史の舞台に触れ、都市景観と光のあり方を勉強し、また未来を見るがごとの予感がする大学の視察等、大変有意義な期待以上のシンポジウムであった。

最後に2日間に亘る函館 aaca景観シンポジウム開催に付きまして、主催者の方々、関係者の皆様の労に感謝申し上げます。





選考委員長 近江 栄  
 // 委員 會田 雄亮  
 // 委員 加藤 貞雄  
 // 委員 小林 治人  
 // 委員 松本 哲夫  
 ゲスト選考委員 北川原 温  
 // 平倉 直子

## 審査総評

今年度のAACCA賞には、あらたに芦原義信（会長）賞が新設されたこともあって、昨年までの応募作品点数の50%増が目立った現象であった。

AACCA賞部門17点、芦原義信賞19点の応募作品の中から、選考委員会で議論の末複数の選考委員による現地審査を経て、最終審査を行い対象作品を絞り込み選出された。

芦原義信賞の趣旨は「優れた創造的環境形成に寄与した未来ある新人」に与えられるというもので、最終審査段階で種々の議論が交わされ受賞作品が決定した。

すでにBCS賞など各種の受賞歴の豊富な建築家よりも、アーティストとのコラボレーションによって、開かれた芸術的環境の創出に貢献した成果を重く見るようになった。

とくにベストセラーズ「街並みの美学」（芦原義信著）のコンセプトである単体よりもとくに街並を意識したような応募作品は少なく、AACCA賞の本来の建築家とアーティストとの連携へのアプローチの成果でエントリーしている作品が大半を占めていた。

「未来ある新人」という賞の趣旨に沿って我こそは芦原義信賞に適格という自信がAACCA賞へのエントリー数より上廻ったものと思われる。

丸の内ビルディングがどのような佇まいで出現するのは、建築界のみならず日本全国の人から注目されてきた文化現象といつてよい。

ひとむかし前、旧丸ビルよりも皇居寄りのお濠端に屹立した東京海上ビルは外装に朱色の煉瓦（レンガ）を纏った格子状のストイックな外観でその姿を現したときは、当然のことだが賛否両論が一般メディアを賑わし丸の内地域への市民の期

待や思い込みの深さを知らされた。

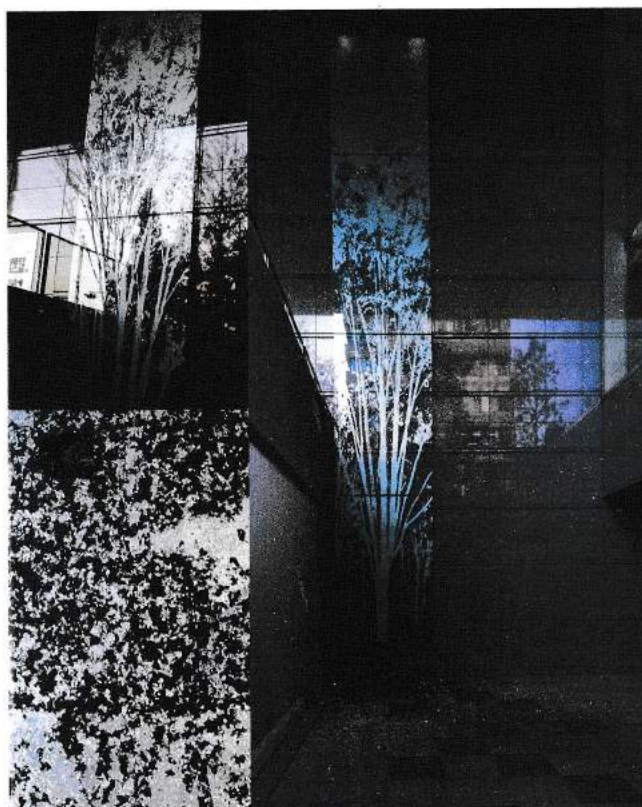
AACCA賞受賞作の決定については審査員の一人が東京海上ビルの当時のインパクトと比較して、受賞作の歴史環境を意識した外観デザインの保守性と、数多いアートとのコラボレーションに異議を唱える場面もあったが、この作品に盛り込まれた豊富なコンセプトとアートとのコラボレーションの成果に圧倒的多数の審査員の支持を得て受賞作に選出された経緯がある。AACCA賞奨励賞の東京都立つばさ総合高等学校は近ごろの新制度から生まれた数少ない高校のキャンパスとして他の都立高校とは比較にならないゆとりのあるプロジェクトで、とくに工事中の400mトラックが完成すれば、今後はおそらく追隨を許さぬレベルの施設になる。

とりわけ三人の審査員が現地を訪れて注目したのは、学校建築として豊かな空間が巧みに組合され演出が行届いていることよりも、各フロアの壁面に施されたウォールグラフィック「Wisdom on wall」の提案そのものであった。

（選考委員長 近江 栄）

作品名：丸の内ビルディング

作者名：代表(株)三菱地所設計



## 審査講評

「丸ビル空間に於ける建築とアートのコラボレーションについて」

見学に向いたとき、まだ10時半にもならないのに、商店の11時開店を待つ人でロビーはごったがえしていた。併し、それほどの人混みでも少しも猥雑にならず、しかも、どこかエレガントな雰囲気さえ感じさせていたのは、なにより広い建築空間と質の高いアートとのコラボレーションの成果であろう。

エントランス・ファサードに展開する力強いリブ材の造形は、巨大な波乗りを

連想させ、又、サンドブラストで模様を彫り出した板ガラスの作品は、我々を異次元の庭園空間へ誘ってくれる。

巨大アトリウムを含む全体空間には、4人の作家がアリアを歌うパートを持っているが、どの作品も建築空間との調和に配慮している点、好感を持つ事が出来た。

又、この空間には、製作者の表示こそ出ていないが随所にデザイン的エスプリのきいた表現を散見することが出来る。飲食店まわりの廊下の壁を波打つ様に仕上げ、そこを洗い出して洒落た壁面を表現したり、又、通路に天蓋状の装置を作

り、四角な掘り込みを鮮やかな色彩に照明した壁面など、名前こそ出していないが、インテリアスタッフの仕事が丸ビル全体の質を支えているからこそ、アリアも輝いているのではないかとの印象を強くした。

丸ビルの内部空間の創造にあたり、アーティストを含め4年に渡る共同作業が行われたと聞かすが、兎角まとまり切らない巨大商業空間の計画において、建築とアートのコラボレーションの効果が充分発揮された成功例であろうと、審査会で意見の一致をみたものである。

(選考委員 會田雄亮)

## AACA賞奨励賞

作品名：都立つばさ総合高等学校ウォールグラフィック “Wisdom on wall”

作者名：葛西 薫+(株)アンドーギャラリー+(株)山下設計

### 審査講評

建物は外観と内装を白色系でまとめ、計画もローコストに淡々とおさめられている。そのような中で、パンチを利かせた色彩豊かな壁面は、その壁面の長さや階段吹き抜けのあるゆったりとしたスペースを活かし、単なるカラースキムを越えて、アートとして存在していた。

色彩の美しさ、色彩間の調和はいうまでもなく、着色範囲の選定や目地をとって塗分けるなどの詳細まで、建築計画との調整をはかることによって、額縁に小さく納まることなく、アートの領域を広げている。いつも見なれた非常警報装置や避難口誘導灯もアートにとりこまれ、

これらに影響されてか、ガラスのカーテンウォールの日除けスクリーンの下げ方に、学生達の工夫がみられるのも楽しみのひとつであった。応募プレゼンテーションの絞り込み方が功を奏したと思う。

(ゲスト選考委員 平倉直子)



# 第1回芦原義信賞

作品名：アートガーデン

作者名：(株)竹中工務店広島支店設計部 川北 英、門谷和雄

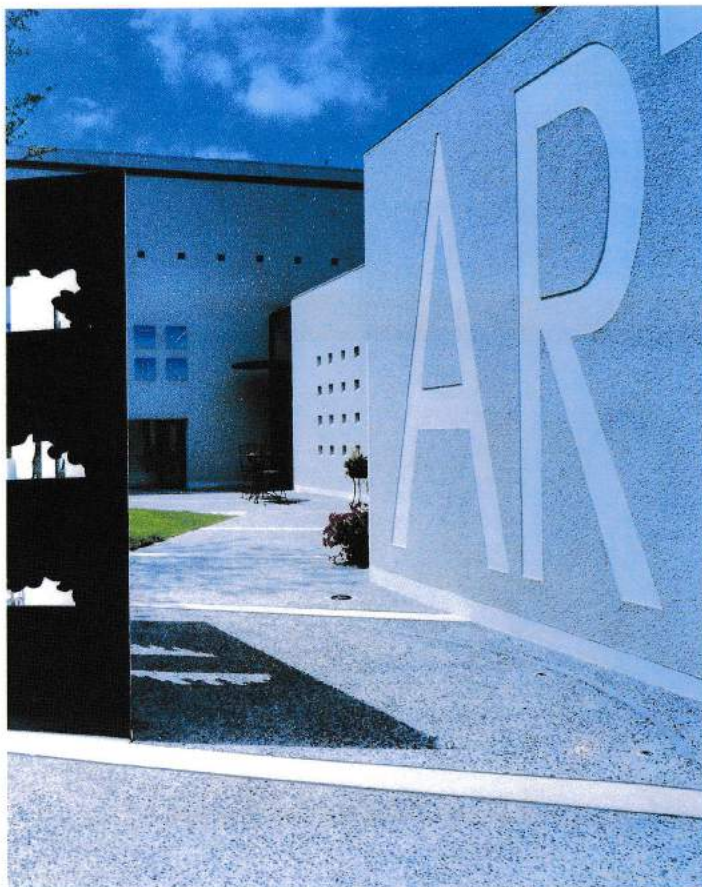
## 審査講評

「アートガーデン」と名づけられたこの建築は、岡山駅より歩いて約10分の住商混在地域にある。周辺の低層の住宅と調和しつつ表通り、裏通りから充分な駐車スペースを含む前庭を取ったRC造2階建て、といっても吹抜けのギャラリーの一部に2階がある建物である。

この建物は、美術・工芸・音楽等、多様な文化発信の場として計画され主たるギャラリーを中心に、市民たちの発表の場になるアトリエカフェ、各種の芸術文化教室に使われる貸スペースで構成されている。

白石齋氏の9m/m厚の鉄板で製作されたフェンスと扉、打ち放しコンクリートの正面壁に取りつけられ陶板レリーフ等、さりげないアートとの調和は、この街並みの中にたくみに融け込んでいて、良い街並を形成している。

(選考委員 松本哲夫)



# アピアランス



aaca会員  
染色造形作家  
YAMAGUCHI WAKAKO  
**山口和加子**  
世田谷区松原5-60-7  
TEL 03-3321-0715

「X-Concurrence」  
127×92×4cm

和紙という素材を使っていろいろな表現を試みしています。この作品は土や岩の強い自然界の色からイメージして交差する線としわを寄せた和紙の集合で素材の持つ風合の力強さ、温かみのあるやさしさを表現しました。



aaca会員  
ガラス造形  
Yuri Glass Studio  
WATANABE YURIYO  
**渡辺百合世**  
品川区荏原2-3-10-401  
TEL 03-3785-7072

「未来への伝言」  
渋谷区恵比寿3丁目1-7  
藤原栄本社ビル1階ホール  
スタンドグラスW3000×H1600  
サンドブラストW3000×H1600

最新放送機器の開発、製造を行う本社ビルに相応しい、現代感覚に溢れた作品にしました。デザインが反転したサンドブラストの作品はスタンドグラスの影。陰と陽の2つの作品は、互いに助け合い、広がり、集中します。



aaca会員  
染織造形作家  
YOSHIDA JUNKO  
**吉田 淳子**  
茨城県下館市稲野辺267  
TEL 0296-24-6252

「風を感じて…」  
ワコール銀座アートスペース  
2000×3800×1200mm

和紙の軽くて、暖かみのある風合いが好きで、和紙と向き合いながら素材感を壊さないように作品を制作しています。蠟引きして染色した和紙に糸を挟み、重ね色の変化と風になびく様子を表現しました。



aaca会員  
彫刻家  
HASEGAWA FUTABA  
**長谷川双葉**  
神奈川県逗子市久木6-1-9  
TEL 046-872-1528

「個人蔵 海ヲミテイル」  
53×30×19cm

好きな石を使い、意味なく理由もなく、ただ心の琴線に触れてくる。そんな作品を作り続けたい

## CONTENTS

- 第14回2002函館aaca景観シンポジウム …1  
函館aaca景観シンポジウムを終えて ……6  
シンポジウムに参加して ……7  
第12回AACA賞・第1回芦原義信賞 審査講評 …8

## ■表紙デザイン

高部 多恵子

表紙の作品を募集しています。  
事務局までお問い合わせください。  
尚表紙のレイアウトは、広報委員会で行います  
のでご了承下さい。

発行：観日本建築美術工芸協会  
Phone 03-3457-7998  
Fax 03-3457-1598  
〒108-0014  
東京都港区芝5-26-20  
建築会館6F  
URL：http://www.aacajp.com  
E-mail：info@aacajp.com

郵便振替：00110-2-365085

編集：(社)日本建築美術工芸協会 広報委員会  
広報担当理事 柳澤孝彦  
委員長 玉見 満  
副委員長 高部多恵子  
北村孝昭、石田眞人、山崎禪子  
長谷川亨、瀬川秀之、佐田興三  
事務局 長 伊藤留雄

制作協力：中栄印刷工業株式会社